

報告書5: 2023年8月

黒岩 麟平

ここまで二年間のご支援ありがとうございました。論文としての成果はまだ出ていませんが、これからも研究に励んでいこうと思います。

1 研究

最近、他のラボと共同研究が始動したり、新しいことを始めたり、推進力を持って、楽しく研究を続けています。仕事に軽く一区切りがつき、新たなステージに進んでいると感じます。研究は、センチュウの生殖腺細胞にあり、相分離で形成されると考えられている germ granule の構成タンパク質を使って、タンパク質が相分離する仕組み、相分離してできた dense phase の物性がどう決まるのか、その物性の生理学的意義はなにか、という疑問をもって行なっています。

取り組んでいる問題は、重要で興味深いものと感じますが、普段は、精製タンパク質を使った再構成系で、おおいに単純化した実験系なので、得た知識がより複雑な実際の生き物でどの程度成り立つのか、という注意を払い、時々センチュウ自体も使って生物に回帰するように心がけています。ただ、実際の生き物で適用されないとしても、工学的、合成生物学的な視点からは、より多くのことが興味深く感じます。一方、心の底では理学的な興味のほうが強いため、限られた時間と労力の中で、どの程度流れに身を任せるのか、目の前に転がる興味、あるいは大きい額縁での興味のどちらを取るのか、など研究者としての方針をよく考えるようになりました。

6月上旬に、スイスで行われた学会に参加しポスター発表をしました。小さめの学会で、数学や物理学出身の人も割と参加しており、濃密で刺激的な学会でした。また同時に分野としての課題も見えてきて、有意義な時間でした。私のポスターは、分野でなんとなく受け入れられている(?) 考えに反例を示すもので、それを一般化するものではありませんが、多くの人が興味を持ってくれたようです。私のいる分野はまだ発展途上で、割と基本的なところでもコンセンサスがないものがあるので、私のデータがどの程度普遍性があるのか、これから様子見です。

2 雑感

PhD 後の進路について、ポスドクを考えていますが、前述の学会中、ヨーロッパ（主にスイス、ドイツ、イギリス）でのポスドクについてより具体的な理解が進みました。生活の面から、ヨーロッパでのポスドクを強めに考えていますが、実際に話を聞いて、有用な機会でした。先日の船井交流会では、ある程度最近の奨学生のみで、それより上回の方がいなかったの、またの機会にポスドクの話を知りたいな、と思っています。

前回の報告書で触れた大学院生の労働組合については、無事組合の結成が決定され、大学との交渉が進んでいます。なかなか面白い状況になっています。労働組合と雇用者の bargaining/交渉中は、労働条件を変更するのが違法なのですが、大学は stipend の増額（これは学生に有利なのでそれに対する反対自体はなかった）やジムを含めた複数の建物の取り壊し（代わりの建物や案は提示されていない）などが、事前の通達もなしに決定されました。また労働条件の明文化に関する交渉も、大学側は保守的なようで、思っていた以上に大学は学生を軽視していると感じ取れます。

今夏、また引っ越しをしました。以前の住居では、同居人と衛生観念が解離していたり、裏庭から自転車が盗まれたり、徒歩数分の距離で殺人が起きたり、などなどということで、あまり幸せにはなれなかったの

でした。新しい住居は治安の比較的よい地域にあり、家の条件もよく、(いまのところ)同居人との関係も至極良好なので、再び引っ越しをせずにすむといいなあ。